

-1-

AN - 82-212267
TI - RUST PREVENTING AND CLEANING PAINT FOR METAL AND THE LIKE
PA - (2459982) DAITO KOGYO KK
IN - KURIHARA, MITSUGI; TOBE, KENICHI
PN - 82.12.27 J57212267, JP 57-212267
AP - 81.06.25 81JP-097566, 56-97566
SO - 83.03.18 SECT. C, SECTION NO. 157; VOL. 7, NO. 66, PG. 31.
IC - C09D-005/20; C09D-005/08
JC - 14.7 (ORGANIC CHEMISTRY--Coating Material Adhesives); 12.6
(METALS--Surface Treatment)
AB - PURPOSE: The titled paint, prepared by incorporating a strippable paint with a reinforcing fibrous material, easily strippable at a low cost, and having improved rust preventing effect.
CONSTITUTION: A strippable paint 2 previously reinforced with a bandage 4 or glass fibers is applied to an edge part 1 of a welding metal to form a layer having a film thickness of 0.2-0.3mm. The resultant paint can be stripped without cutting at a part 3.
USE: Rust prevention, dust removal of glass, metallic products, etc.

⑨ 日本国特許庁 (JP)
⑩ 公開特許公報 (A)

⑪ 特許出願公開
昭57-212267

⑫ Int. Cl.³
C 05 D 5/20
5/08

識別記号

庁内整理番号
6779-4 J
6779-4 J

⑬ 公開 昭和57年(1982)12月27日

発明の数 1
審査請求 有

(全 2 頁)

⑭ 金属等の防錆及びクリーニング用ペイント

⑯ 発明者 戸部健一

横須賀市三春町四丁目24番地

⑰ 特 願 昭56-97566

⑰ 出 願 人 大東興業株式会社

⑱ 出 願 昭56(1981)6月25日

横浜市南区南太田町一丁目117

⑲ 発 明 者 栗原貢

番地

横浜市中区本牧一丁目131番地

明 細 書

1. 発明の名称

金属等の防錆及びクリーニング用ペイント

2. 特許請求の範囲

- (1) 可削性ペイントに補強用繊維素材を混入させて成る金属等の防錆及びクリーニング用ペイント。
- (2) 前記繊維素材が包帯である特許請求の範囲第(1)項に記載の防錆及びクリーニング用ペイント。
- (3) 前記繊維素材がガラス繊維である特許請求の範囲第(1)項に記載の防錆及びクリーニング用ペイント。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、金属等の防錆や腐蝕除去に使用されるペイントに関するものである。可削性ペイントは物体の表面に塗布した後、テープ状に剥がせる特性を持ち、本来はガラスや金属製品に埃が付着するのを防止する被膜として使用される。また可削性ペイントを母材金属の開先部分に使用すれば、磨接時に改めて研磨する必要もなく、更にペイントを剥がすと同時に開先部分の微粉も除去できる。

この可削性ペイントの使用方法は、既に同出願人が出願している(特願昭55-27890号)が、その後、可削性ペイントを剥離する際、途中でペイントが切れることがあり、もっとペイントの強度を増してほしいという要望があった。特にこの問題が生じるのは、金属開先部分の下面であり、開先の角度が鋭利な程ペイントは切れ易い(第1図中3で示す部分参照)。開先部分の形状はそれぞれ大きく異なるから、ペイント側を改良しなければならぬ。

本発明は、可削性ペイントに繊維素材を混入させて補強することによりこの問題を解決した。以下添付図面に従ってその具体例を詳述する。

第2図は、繊維素材として包帯を用いたものである。可削性ペイント2が浸み込む程度の繊維であれば、他の物でも差しつかえない。包帯によって可削性ペイント2は補強されることとなり、剥離中に3の部分で切断することもない。第3図は可削性ペイント内に予めガラス繊維5を混入させた例である。尚、可削性ペイントにはクリバ

ク(商品名)が好適であり、0.2~0.3 mmの膜厚で充分な防錆効果が得られる。図面では溶接金属の肉先部分のみを示したが、その他防錆や腐蝕除去の必要な箇所にも本発明は使用できる。

仮上の如く本発明によれば、可削性ペイントの剥離作業が著しく容易になるし、包帯やガラス繊維を採用しているから低コストで済む利点がある。

4. 図面の簡単な説明

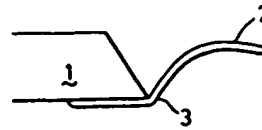
第1図は、従来例を示す拡大側面図、第2図及び第3図は本発明の実施例を示した拡大側面図である。

1…金属の肉先部分、2…可削性ペイント、3…ペイントの切断箇所、4…包帯、5…ガラス繊維

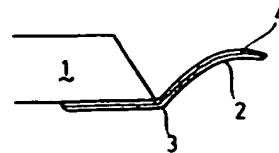
特許出願人 大東興業株式会社



第1図



第2図



第3図

